

## 当日の流れ

- あいさつ
- 森の話・ドングリの話
- 苗畑への定植
- 森の散策・樹名板設置・ドングリ拾い
- 里親ポットづくり  
(菊池俊一研究室@山形大学農学部)
- 昼食
- たき火体験
- 解散

## 服装・持ち物

- 昼食
  - お持ちの方は2~3年育てていただいた「里親ポット」
  - 汚れてもよい服装
  - 軍手または皮手袋
  - 水分補給用 飲み物
  - たき火で焼いて食べたいもの
- ※ やきいも用のサツマイモは準備します。



## 【ドングリの森づくり】

コナラやミズナラの里山林には、生活に欠かせない燃料である薪や炭を生産し、いろんな肥料となる落ち葉を採取するため、人々が頻繁に出入りしていました。

人が立ち入ることで若々しく明るい広葉樹林が維持され、里山林ならではの草花や昆虫などが多く生息していました。

しかし、生活様式の変化から里山林は徐々に放置されるようになってきました。放置されたナラ林では「ナラ枯れ」という病気が蔓延し、ドングリの木である多くのナラが枯れてしまいました。

今回皆さんが拾うドングリはうまく育てると来春には発芽し、ナラの赤ちゃん（苗木）となります。

苗木をたくさん育てて植え、かつては鶴岡一円で見られた里山林を再生してみましょう。

(呼びかけ人：山形大学農学部 准教授 菊池俊一)

